

ダイワDBモメンタム 戦略ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	約5年間（2017年8月23日～2022年8月19日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

運用報告書（全体版）

第3期

（決算日 2019年2月19日）

（作成対象期間 2018年8月21日～2019年2月19日）

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金への配分を変更しながら、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2721>

<2722>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 配 分 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末 (2018年 2 月19日)	10,410	150	5.6	—	98.2	25,901
2 期末 (2018年 8 月20日)	10,060	0	△ 3.4	—	98.2	32,422
3 期末 (2019年 2 月19日)	9,646	0	△ 4.1	—	98.1	26,690

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注 2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

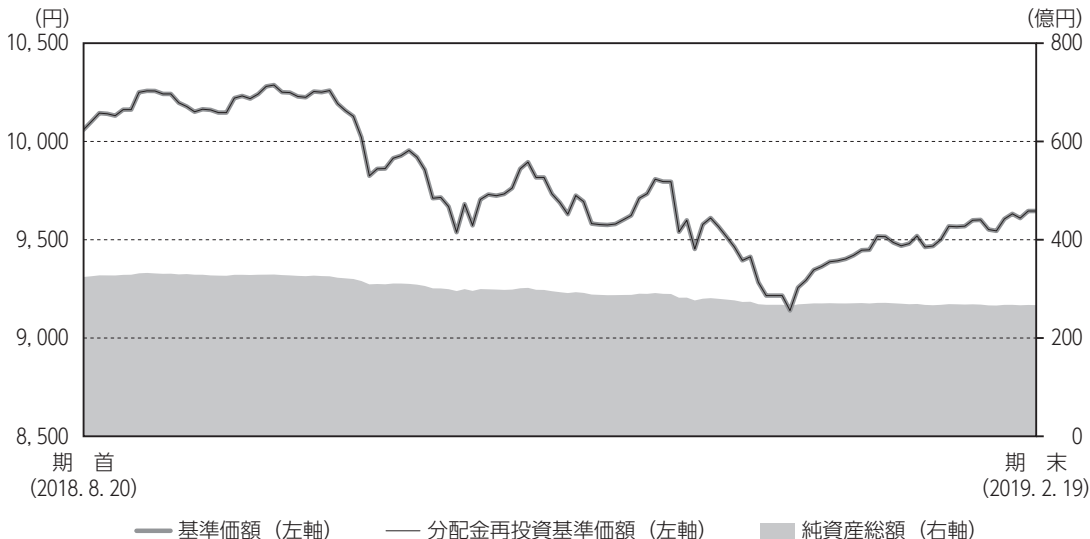
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注 4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,060円

期末：9,646円（分配金0円）

騰落率：△4.1%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主にオージェンタム・トラスト・モメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス）（以下「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」といいます。）の下落が要因となり、基準価額は下落しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、金が上昇したことはプラスに寄与しましたが、米国の株式が下落したことはマイナス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2018年 8月20日	10,060	—	—	98.2
8月末	10,257	2.0	—	99.1
9月末	10,229	1.7	—	99.2
10月末	9,573	△ 4.8	—	98.3
11月末	9,711	△ 3.5	—	98.9
12月末	9,140	△ 9.1	—	98.1
2019年 1月末	9,502	△ 5.5	—	98.3
(期末)2019年 2月19日	9,646	△ 4.1	—	98.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2018. 8. 21 ~ 2019. 2. 19)

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

当作成期首から2018年9月下旬にかけては、好調な企業決算や原油価格の上昇、米中貿易摩擦懸念の緩和を背景に株式市況は上昇しました。10月に入ると、米中貿易摩擦懸念が再燃したほか、中国景気への懸念やサウジアラビア情勢の不透明感から、市況は下落しました。12月には、世界経済の成長減速懸念や米国の政治の混乱を受けて下落幅を広げましたが、2019年1月上旬から2月中旬にかけては、米中通商協議への期待が高まったほか、FOMC（米国連邦公開市場委員会）において米国の利上げに慎重な姿勢が示されたことなどが好感され、市況は上昇しました。

■米国長期金利

米国長期債券市況は上昇（金利は低下）しました。

当作成期首から2018年10月下旬にかけては、米国の政策金利の引き上げが決定されたほか、米国の雇用統計が堅調だったことなどから長期債券市況は下落しました。11月に入り、景気の減速懸念などを背景に長期債券市況は上昇基調となりました。2019年に入り、株式市場の反発などを受け長期債券市況は一時下落しましたが、FRB（米国連邦準備制度理事会）が金融緩和的な方向に姿勢変更をしたことから、当作成期末にかけて上昇基調となりました。

■金

金価格は上昇しました。

当作成期首から2018年9月下旬にかけては、9月と12月に実施が予想されていたFRB（米国連邦準備制度理事会）による利上げが金相場の重しとなり、金価格は軟調な推移となりました。10月に入ると、世界的な株安や地政学リスクの高まりを受けて安全資産としての金の需要が高まり、上昇しました。12月には、株式市場の下落や米ドル安・原油安などを背景に金を買われ、上昇しました。2019年に入ると、米国の金融引き締め姿勢の後退を受けて米ドルが下落し、米ドル建てで取引される金の割安感から金価格は続伸しました。

■米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利2.00~2.50%（年率）近辺で推移し、米国短期債券市況は緩やかに上昇しました。

■短期金利市況

日本では、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続し、短期金利は低位で推移しました。一方、FRB（米国連邦準備制度理事会）は2018年9月および12月に政策金利の誘導目標を0.25%ポイントずつ引き上げ、2.25~2.50%としました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

ポートフォリオについて

(2018. 8. 21 ~ 2019. 2. 19)

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2018年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2019年1月末
米国株式	70.0%	70.0%	58.8%	52.6%	45.1%	38.9%
米国長期金利	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.6%	13.4%
金	16.3%	13.2%	8.5%	5.8%	2.9%	0.0%
米ドルキャッシュ	13.7%	16.8%	32.7%	41.6%	45.3%	47.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、基準価額の水準等を勘案して、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2018年8月21日 ～2019年2月19日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（%）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	267

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 8. 21～2019. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	57円	0.582%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,770円です。
(投 信 会 社)	(19)	(0.189)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(37)	(0.379)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	57	0.586	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

（2018年8月21日から2019年2月19日まで）

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 （邦貨建）	3,414.29642	360,000	48,872.95797	4,890,000

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

（2018年8月21日から2019年2月19日まで）

当 期				期 末			
買 付	□ 数	金 額	平均単価	売 付	□ 数	金 額	平均単価
銘 柄	千口	千円	円	銘 柄	千口	千円	円
ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS（ケイマン諸島）	3,414.29642	360,000	105	ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS（ケイマン諸島）	48,872.95797	4,890,000	100

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS	262,339.75861	26,174,162	98.1

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	6,592	6,592	6,591

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	26,174,162	97.0
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	6,591	0.0
コール・ローン等、その他	812,439	3.0
投資信託財産総額	26,993,192	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年2月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	26,993,192,891円
コール・ローン等	812,439,066
投資信託受益証券（評価額）	26,174,162,396
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	6,591,429
(B) 負債	302,713,136
未払解約金	129,803,536
未払信託報酬	171,845,079
その他未払費用	1,064,521
(C) 純資産総額（A－B）	26,690,479,755
元本	27,671,352,719
次期繰越損益金	△ 980,872,964
(D) 受益権総口数	27,671,352,719口
1万口当り基準価額（C/D）	9,646円

* 期首における元本額は32,229,960,037円、当作成期間中における追加設定元本額は1,685,275,921円、同解約元本額は6,243,883,239円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,646円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は980,872,964円です。

■損益の状況

当期 自 2018年8月21日 至 2019年2月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 94,741円
受取利息	11,371
支払利息	△ 106,112
(B) 有価証券売買損益	△ 942,477,198
売買益	193,847,316
売買損	△ 1,136,324,514
(C) 信託報酬等	△ 173,029,639
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	△ 1,115,601,578
(E) 前期繰越損益金	△ 252,418,149
(F) 追加信託差損益金	387,146,763
（配当等相当額）	（ 234,234,989）
（売買損益相当額）	（ 152,911,774）
(G) 合計（D＋E＋F）	△ 980,872,964
次期繰越損益金（G）	△ 980,872,964
追加信託差損益金	387,146,763
（配当等相当額）	（ 234,234,989）
（売買損益相当額）	（ 152,911,774）
分配準備積立金	505,264,294
繰越損益金	△ 1,873,284,021

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	234,234,989
(d) 分配準備積立金	505,264,294
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	739,499,283
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	739,499,283
(h) 受益権総口数	27,671,352,719口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 配 分 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末 (2018年 2 月19日)	10,324	100	4.2	—	96.6	61,325
2 期末 (2018年 8 月20日)	10,472	50	1.9	—	97.2	77,315
3 期末 (2019年 2 月19日)	10,179	0	△ 2.8	—	98.4	63,471

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注 2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注 4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：10,472円

期末：10,179円（分配金0円）

騰落率：△2.8%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

主にオージェンタム・トラスト・モメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）（以下「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」といいます。）の下落が要因となり、基準価額は下落しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、金が上昇したことや米ドルが対円で上昇したことはプラスに寄与しましたが、米国の株式が下落したことはマイナス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2018年 8月20日	10,472	—	—	97.2
8月末	10,762	2.8	—	98.1
9月末	10,950	4.6	—	99.4
10月末	10,222	△ 2.4	—	98.4
11月末	10,434	△ 0.4	—	98.7
12月末	9,618	△ 8.2	—	98.9
2019年 1月末	9,930	△ 5.2	—	98.2
(期末)2019年 2月19日	10,179	△ 2.8	—	98.4

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2018. 8. 21 ~ 2019. 2. 19）

■米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

当作成期首から2018年9月下旬にかけては、好調な企業決算や原油価格の上昇、米中貿易摩擦懸念の緩和を背景に株式市況は上昇しました。10月に入ると、米中貿易摩擦懸念が再燃したほか、中国景気への懸念やサウジアラビア情勢の不透明感から、市況は下落しました。12月には、世界経済の成長減速懸念や米国の政治の混乱を受けて下落幅を広げましたが、2019年1月上旬から2月中旬にかけては、米中通商協議への期待が高まったほか、FOMC（米国連邦公開市場委員会）において米国の利上げに慎重な姿勢が示されたことなどが好感され、市況は上昇しました。

■米国長期金利

米国長期債券市況は上昇（金利は低下）しました。

当作成期首から2018年10月下旬にかけては、米国の政策金利の引き上げが決定されたほか、米国の雇用統計が堅調だったことなどから長期債券市況は下落しました。11月に入り、景気の減速懸念などを背景に長期債券市況は上昇基調となりました。2019年に入り、株式市場の反発などを受け長期債券市況は一時下落しましたが、FRB（米国連邦準備制度理事会）が金融緩和的な方向に姿勢変更をしたことから、当作成期末にかけて上昇基調となりました。

■金

金価格は上昇しました。

当作成期首から2018年9月下旬にかけては、9月と12月に実施が予想されていたFRB（米国連邦準備制度理事会）による利上げが金相場の重しとなり、金価格は軟調な推移となりました。10月に入ると、世界的な株安や地政学リスクの高まりを受けて安全資産としての金の需要が高まり、上昇しました。12月には、株式市場の下落や米ドル安・原油安などを背景に金を買われ、上昇しました。2019年に入ると、米国の金融引き締め姿勢の後退を受けて米ドルが下落し、米ドル建てで取引される金の割安感から金価格は続伸しました。

■米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利2.00~2.50%（年率）近辺で推移し、米国短期債券市況は緩やかに上昇しました。

■ 為替相場

米ドルは対円で小幅上昇しました。

当作成期首から2018年9月下旬にかけては、米国の堅調な経済指標やトルコを中心とした新興国市場への懸念が後退したことなどを受けて、円安米ドル高となりました。10月下旬から11月中旬にかけては、米国の中間選挙をめぐる不透明感が後退したことなどから、再び円安米ドル高となりました。12月中旬から12月下旬にかけては、株価や原油価格が下落し市場のリスク回避姿勢が強まったことから、円高米ドル安となりました。2019年に入ると、米国の雇用統計が好調であったことなどを背景に、2月中旬にかけて上昇しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■ 当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■ モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

ポートフォリオについて

（2018. 8. 21 ~ 2019. 2. 19）

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期間において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2018年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2019年1月末
米国株式	70.0%	70.0%	58.8%	52.6%	45.1%	38.9%
米国長期金利	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.6%	13.4%
金	16.3%	13.2%	8.5%	5.8%	2.9%	0.0%
米ドルキャッシュ	13.7%	16.8%	32.7%	41.6%	45.3%	47.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、基準価額の水準等を勘案して、収益分配を見送らせていただきました。
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2018年8月21日 ～2019年2月19日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	178

- （注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
 （注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
 （注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 8. 21～2019. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	60円	0.582%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,346円です。
（投 信 会 社）	(20)	(0.189)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(39)	(0.379)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.002	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	60	0.584	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

（2018年8月21日から2019年2月19日まで）

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 （邦貨建）	14,725.10077	1,600,000	119,684.78248	12,760,000

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

（2018年8月21日から2019年2月19日まで）

買 付	当 期			平均単価	売 付	期 末		
	銘 柄	□ 数	金 額			銘 柄	□ 数	金 額
		千口	千円	円		千口	千円	円
ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS（ケイマン諸島）		14,725.10077	1,600,000	108	ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS（ケイマン諸島）	119,684.78248	12,760,000	106

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS	592,548.96448	62,442,809	98.4

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	10,288	10,288	10,286

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	62,442,809	97.0
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	10,286	0.0
コール・ローン等、その他	1,939,421	3.0
投資信託財産総額	64,392,518	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年2月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	64,392,518,394円
コール・ローン等	1,939,421,893
投資信託受益証券（評価額）	62,442,809,876
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	10,286,625
(B) 負債	921,515,427
未払解約金	504,174,262
未払信託報酬	416,262,879
その他未払費用	1,078,286
(C) 純資産総額（A－B）	63,471,002,967
元本	62,356,718,134
次期繰越損益金	1,114,284,833
(D) 受益権総口数	62,356,718,134口
1万口当り基準価額（C/D）	10,179円

* 期首における元本額は73,832,840,426円、当作成期間中における追加設定元本額は7,690,568,663円、同解約元本額は19,166,690,955円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,179円です。

■損益の状況

当期 自 2018年8月21日 至 2019年2月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 278,583円
受取利息	49,044
支払利息	△ 327,627
(B) 有価証券売買損益	△ 1,468,690,337
売買益	474,397,313
売買損	△ 1,943,087,650
(C) 信託報酬等	△ 417,639,474
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	△ 1,886,608,394
(E) 前期繰越損益金	748,134,578
(F) 追加信託差損益金	2,252,758,649
（配当等相当額）	（ 84,527,668）
（売買損益相当額）	（ 2,168,230,981）
(G) 合計（D＋E＋F）	1,114,284,833
次期繰越損益金（G）	1,114,284,833
追加信託差損益金	2,252,758,649
（配当等相当額）	（ 84,527,668）
（売買損益相当額）	（ 2,168,230,981）
分配準備積立金	748,311,472
繰越損益金	△ 1,886,785,288

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	366,431,056
(d) 分配準備積立金	748,311,472
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	1,114,742,528
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	1,114,742,528
(h) 受益権総口数	62,356,718,134口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド
日本円クラス／米ドル・クラス

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））はケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド 日本円クラス／米ドル・クラス」に投資しておりますが、以下の内容は一部の項目を除きすべてのクラスを合算しております。

（注）2019年2月19日時点で入手しうる直近の状況を掲載しております。

（日本円建て）

貸借対照表
2017年12月31日

資産

投資資産の評価額（簿価 ¥77,754,981,586）	¥	82,005,999,063
現金および現金同等物		150,816,636
スワップ契約による評価益		98,119,385
その他資産		160,326
資産合計		82,255,095,410

負債

未払：

終了済みスワップ契約		423,673,032
購入済みの投資		100,821,951
担保不足額		41,418,323
管理会社報酬		11,811,589
設立費用		10,426,129
専門家報酬		9,164,016
運用会社報酬		7,041,292
名義書換代理人報酬		1,947,603
受託会社報酬		387,400
保管会社に対する支払		32
負債合計		606,691,367

純資産

	¥	81,648,404,043
日本円クラス	¥	23,843,638,066
米ドル・クラス		57,804,765,977
	¥	81,648,404,043

発行済み受益証券口数

日本円クラス		227,921,960
米ドル・クラス		529,875,853

受益証券1口当り純資産額

日本円クラス	¥	104.613
米ドル・クラス	¥	109.091

損益計算書

2017年8月23日～2017年12月31日

投資収益		
受取利息	¥	3,176,543
投資収益合計		<u>3,176,543</u>
費用		
担保不足費用		112,184,848
設立費用		25,000,000
運用会社報酬		21,663,191
管理会社報酬		12,291,925
専門家報酬		9,164,016
名義書換代理人報酬		2,019,608
受託会社報酬		387,400
その他費用		32
費用合計		<u>182,711,020</u>
投資純損失		<u>(179,534,477)</u>
実現益／（損）および評価益／（損）：		
実現（損）の内訳：		
スワップ契約		(715,015,113)
外国為替取引		(8,530,832)
純実現損		<u>(723,545,945)</u>
評価益の純変動の内訳：		
証券投資		4,251,017,477
スワップ契約		98,119,385
外国為替換算		2,347,603
評価益の純変動		<u>4,351,484,465</u>
純実現・純評価益		<u>3,627,938,520</u>
運用による純資産の純増	¥	<u>3,448,404,043</u>

ダイワDBモメンタム戦略ファンド

(日本円建て)

投資明細表
2017年12月31日

ストラクチャード商品

投資資産の明細	受益証券口数	純資産に 占める割合	評価額
Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index* - トータル・リターン・スワップ	686, 169	100. 44%	¥ 82, 005, 999, 063
ストラクチャード商品計 (簿価 ¥77, 754, 981, 586)			82, 005, 999, 063
投資資産計 (簿価 ¥77, 754, 981, 586)		100. 44%	¥ 82, 005, 999, 063

*当ファンドは Deutsche Bank A. G. , ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通して Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index と同様のエクスポージャーを有しています。

日本円クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益	純資産に 占める割合
J P Y	Deutsche Bank A. G.	24, 195, 555, 650	2018/1/31	U S D	(214, 310, 565)	¥ 98, 119, 385	0. 12%

用語集：

J P Y 日本円
U S D 米ドル

<補足情報>

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の決算日（2018年12月10日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2019年2月19日）現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンドの組入資産の内容等を24ページに併せて掲載いたしました。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの主要な売買銘柄

2018年8月21日～2019年2月19日における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2019年2月19日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

運用報告書 第7期（決算日 2018年12月10日）

（作成対象期間 2017年12月12日～2018年12月10日）

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行いません。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

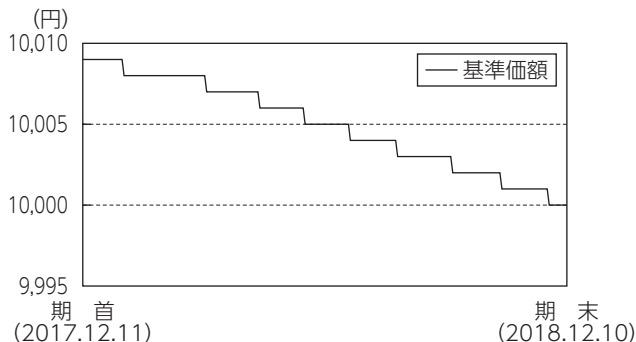
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準価額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2017年12月11日	円	%	%
12月11日	10,009	-	-
12月31日	10,009	0.0	-
2018年1月31日	10,008	△0.0	-
2月28日	10,008	△0.0	0.5
3月31日	10,007	△0.0	-
4月30日	10,006	△0.0	-
5月31日	10,005	△0.0	-
6月30日	10,005	△0.0	-
7月31日	10,004	△0.0	-
8月31日	10,003	△0.1	-
9月30日	10,002	△0.1	-
10月31日	10,001	△0.1	-
11月30日	10,000	△0.1	-
(期末)2018年12月10日	10,000	△0.1	-

- (注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,009円 期末：10,000円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

マイナス金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市場

当作成期首より、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持し、2018年7月には金融緩和継続のための枠組み強化を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	4 (4)
合 計	4

- (注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
 (注2) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■売買および取引の状況
公 社 債

(2017年12月12日から2018年12月10日まで)

		買 付 額	売 付 額
国 内	国債証券	千円 180,001	千円 (180,000)

- (注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
公 社 債

(2017年12月12日から2018年12月10日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄 金 額	銘	柄 金 額
	千円		千円
723	国庫短期証券 2018/3/5		90,000
757	国庫短期証券 2018/8/13		50,000
731	国庫短期証券 2018/7/10		40,000

- (注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	9,019,491	100.0
投資信託財産総額	9,019,491	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	9,019,491,424円
コール・ローン等	9,019,491,424
(B) 負債	745,957
その他未払費用	745,957
(C) 純資産総額(A - B)	9,018,745,467
元本	9,018,625,641
次期繰越損益金	119,826
(D) 受益権総口数	9,018,625,641口
1万口当り基準価額(C/D)	10,000円

* 期首における元本額は17,399,953,390円、当作成期間中における追加設定元本額は2,846,717,287円、同解約元本額は11,228,045,036円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ債券コア戦略ファンド(為替ヘッジあり) 999円、ダイワ債券コア戦略ファンド(為替ヘッジなし) 999円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αクワトロプレミアム(毎月分配型) 219,583円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αクワトロプレミアム(年2回決算型) 24,953円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム(毎月分配型) 848,389円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム(年2回決算型) 66,873円、ダイワ米国株主還元株ファンド36,730,213円、ダイワDBモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジあり) 6,592,748円、ダイワDBモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジなし) 10,288,683円、ダイワ/バリュー・パートナーズ・チャイナ・インベーター・ファンド10,000円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(年1回決算型) 4,995円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(年1回決算型) 4,995円、ダイワ・ブラジル・レアル債α(毎月分配型) -スーパー・ハイインカム- α50コース49,911円、ダイワ・ブラジル・レアル債α(毎月分配型) -スーパー・ハイインカム- α100コース49,911円、ダイワ・オーストラリア高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ14,873,813円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 3 - 858,588,190円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 6 - 2,475,152,803円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 7 - 828,595,357円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 4 - 1,078,808,907円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 5 - 2,095,808,384円、ダイワ円債セレクト マネーコース1,605,380,447円、ダイワ・スイス高配当株ツインα(毎月分配型) 2,996,106円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 為替ヘッジなしコース1,490,665円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 日本円コース497,633円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) ブラジル・レアル・コース994,307円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 通貨セレクト・コース397,742円、ダイワ世界インカム・ハンター(年2回決算型) 為替ヘッジあり40,885円、ダイワ世界インカム・ハンター(年2回決算型) 為替ヘッジなし100,789円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(毎月分配型) 1,235円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(毎月分配型) 1,598円、通貨選択型 ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 日本円コース(毎月分配型) 1,544円、通貨選択型 ダイワ/NB・米国債券戦略ファ

ンド 通貨セレクトコース(毎月分配型) 1,984円です。
* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,000円です。

■損益の状況

当期 自2017年12月12日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 5,977,479円
受取利息	2,652
支払利息	△ 5,980,131
(B) その他費用	△ 4,966,849
(C) 当期損益金(A + B)	△ 10,944,328
(D) 前期繰越損益金	15,761,364
(E) 解約差損益金	△ 5,797,371
(F) 追加信託差損益金	1,100,161
(G) 合計(C + D + E + F)	119,826
次期繰越損益金(G)	119,826

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。